

平成 21 年度高崎市医師会災害医療訓練

平成 22 年 3 月 15 日
救急医療対策委員会

『大規模事故に対応する高崎市医師会行動マニュアル』に則り、大規模事故を想定した災害医療訓練が下記の要領で行なわれました。訓練への参加者は、高崎市医師会会員のほか、高崎市、高崎市等広域消防局、高崎警察署、西部保健福祉事務所、JR 東日本高崎支社、群馬県医薬品卸協同組合などの担当者計 76 名でした。

訓練内容

- A. 『大事故発生時の高崎市等広域消防局の対応』（消防局中島豊久氏による説明）
- B. 災害医療訓練の実施
- C. 訓練後の検討会

訓練の進行

午後 7 時 15 分 高崎・地域医療センター 4 階ホールに集合

訓練の開始宣言及び A、B の司会 小坂橋委員長

- A. 『大事故発生時の高崎市等広域消防局の対応』（午後 7 時 15 分～7 時 30 分）

JR 福知山線脱線事故のような大規模事故が市内で発生した場合の高崎市等広域消防局の対応について、消防局指揮隊長 中島豊久氏から説明を聞く。

- B. 訓練の実施（午後 7 時 30 分～8 時 40 分）

1. 訓練実施要領の説明 大山担当理事

事故の設定 : 本日午前 9 時 10 分頃、上越新幹線の上り列車が、高崎駅から約 4 Km 南の〇〇町〇〇番地付近を走行中に脱線し、前 3 両が高架上で転覆した。脱線転覆した前 3 両を中心に多数の重症者が発生した。車両火災は発生していない。

訓練の目的 : 大規模事故に対応する医師会と各機関の活動を確認し、臨場感のある情報交換訓練とトリアージ訓練を行う。よりよい災害医療に向けて検討会を行う。

訓練の方法 ・情報交換訓練は、担当者が電話や無線機に見立てたマイクを持ち情報の交換を行い、参加者全員がその内容を聞く。

・トリアージ訓練は、負傷者に扮した看護学生 5 人、人形 1 体に対して行う。

訓練内容

- 1) 高崎市長から医師会長への出勤依頼訓練及び医師会長の対応訓練
- 2) 医師会対策本部から初動救護班正副班長及び班員への連絡訓練
- 3) 医師会対策本部から傷病者収容班正副班長病院への連絡訓練
- 4) 事故現場からの傷病者収容班病院への負傷者搬送依頼訓練

5) 医師会現地対策本部からのヘリ搬送依頼訓練

6) START 法によるトリアージ訓練

2. 訓練内容

1) 高崎市長から医師会長への出動依頼訓練及び医師会長の対応訓練

実施者 : 市対策本部 市長 ⇔ 医師会 医師会長、事務長

市長 医師会長へ

市長 : もしもし、市長の松浦です。釜菴医師会長ですか。先ほど上越新幹線で大規模な列車脱線転覆事故が発生しました。負傷者多数が発生した模様であり、救急災害医療活動の発動をお願いいたします。

医師会長 : 分かりました。事故の概要と二次災害の発生見込みなどを報告してください。

市長 : 本日午前9時10分ごろ、上越新幹線の上り列車が、高崎駅から約4Km南の、〇〇町〇〇番地付近を走行中に脱線事故を起こし、前3両が高架上で転覆して停車しました。転覆した車両を中心に、重傷者多数が発生した模様です。車両火災は発生していません。事故現場に最も近い、高架上へ通じる斜路は〇〇町〇〇番地にありません。脱線の原因は現在のところ不明です。『消防局現地指揮本部』は斜路付近に設置されました。事故現場は狭い空間で混乱しており、二次災害には十分な注意が必要です。事故現場近くには、M小学校や〇〇クリニックがあります。

医師会の初動救護班の班長、筆頭副班長には、消防局から車両を向かわせますので準備をお願いいたします。直ぐにこちらから事故の概要をFAXでも連絡いたします。なお、市庁舎内に市災害対策本部が設置されました。

医師会長 : では復唱いたします。(事故の概要を復唱する)

〇〇時××分、ただ今から救急災害医療活動を開始いたします。

医師会長 事務長へ

医師会長 : もしもし、医師会長の釜菴です。松田事務長さんですか。ただ今高崎市長から上越新幹線の高架上で大規模な列車脱線転覆事故が発生したとの連絡が入りました。直ちに救急災害医療活動を発動いたします。

事故の概要は次の通りです。

①本日午前9時10分ごろ、上越新幹線の上り列車が、高崎駅から約4Km南の、〇〇町〇〇番地付近を走行中に脱線事故を起こし、前3両が高架上で転覆し負傷者が多数発生しました。車両火災は発生していません。原因は不明です。事故現場の近くには、M小学校や〇〇クリニックがあります。

②事故現場に最も近い高架上へ通じる斜路は〇〇町〇〇番地にあります。斜路の付近に『消防局現地指揮本部』が設置されました。

③事故現場は狭い空間で混乱しており、二次災害には十分な注意が必要です。直ちに初動救護班の班長・筆頭副班長に出動準備を伝え、班員には出動するようFAXと電話で連絡してください。東部支援救護班には待機を指示してください。

また、医師会内に『高崎市医師会対策本部』と事故現場に『高崎市医師会現地対策本部』を設置してください。

事務長：了解しました。では復唱します（メモを読みあげる要領で）。

では、直ちに2つの本部を立ち上げるとともに、電話とFAXで関係者に指示を伝えます。

別紙『緊急連絡』に示すような内容のFAXを関係者に送る。

訓練のポイント

- (1) 医師会の組織的救急災害医療活動が実行されるためには、市長（広域消防局長）からの出動要請があることが前提であることを、参加者全員が承知する機会とする。
 - (2) 市長から医師会長に、医師会長から事務長に、正確に情報が伝わるか訓練を行う。
特に、事故現場の住所、事故の概要、初動救護班の正副班長名などに注意する。
 - (3) 事務長が、スムーズに医師会内に『高崎市医師会対策本部』、事故現場に『高崎市医師会現地対策本部』を設置できるか検討する機会とする。
 - (4) 一斉に電話とFAXで指示できるように、日頃から準備をする機会とする。
-

2) 医師会対策本部から初動救護班正副班長及び班員への連絡訓練

実施者：医師会対策本部 本部員 ⇄ 初動救護班正副班長、班員

医師会対策本部 初動救護班班長宅へ

医師会対策本部：もしもし、こちらは高崎市医師会事務長の松田です。森田先生のお宅ですか。森田先生をお願いいたします。

初動救護班班長：もしもし、森田です。

医師会対策本部：事務長の松田です。先生、先ほど上越新幹線の上り列車が、〇〇町付近を走行中に脱線事故を起こし、前3両が高架上で転覆する大事故が発生しました。市長の要請を受け、釜沼医師会長は災害医療活動の発動を決定しました。先生は初動救護班の班長として至急出動の用意をお願いいたします。消防局から直ぐにお迎えの車が行きます。医師会対策本部からのFAXもご覧下さい。くれぐれも二次災害にご注意ください。

初動救護班班長：承知しました。直ぐに準備を致します。

医師会対策本部 筆頭副班長宅へ

医師会対策本部：もしもし、こちらは高崎市医師会事務長の松田です。小坂橋先生のお宅ですか。小坂橋先生をお願いいたします。

筆頭副班長の家族：小坂橋は現在学会出張中で、家にはおりません。

医師会対策本部：分かりました。上越新幹線で大規模な列車転覆事故が発生したため、初動救護班の筆頭副班長として、小坂橋先生に出動をお願いしたかったのですが、別の副班長先生に連絡いたします。

筆頭副班長の家族：よろしくをお願いいたします。

医師会対策本部 筆頭でない副班長宅へ

医師会対策本部 : もしもし、こちらは高崎市医師会事務局の吉田です。中島先生のお宅ですか。
中島先生をお願いいたします。

筆頭でない副班長 : 中島です。

医師会対策本部 : 医師会事務局の吉田です。先生、先ほど〇〇町付近で、上越新幹線が走行中に脱線事故を起こし、前3両が転覆する大事故が発生し、重症者が多数発生した模様です。小板橋先生が初動救護班の筆頭副班長でしたが、学会出張中で不在ですので、先生が筆頭副班長として出動をお願いいたします。消防局から直ぐにお迎えの車が行きますので、仕度をして下さい。医師会対策本部からの FAX もご覧下さい。

筆頭でない副班長 : 承知しました。直ぐに準備を致します。

医師会対策本部 初動救護班班員宅へ

医師会対策本部 : もしもし、こちらは高崎市医師会事務局の吉田です。茂木先生のお宅ですか。
茂木先生をお願いいたします。

班員 : 茂木です。

医師会対策本部 : 先生、先ほど上越新幹線が走行中に脱線事故を起こし、前3両が転覆する大事故が発生しました。初動救護班の班員として、至急仕度をして現場に出動してください。事故現場は、高崎駅から約4 Km 上り方面の〇〇町〇〇番地付近です。最も近い高架上への斜路は〇〇町〇〇番地にあります。事故現場の近くには、M 小学校や〇〇クリニックがあります。医師会現地対策本部は斜路付近の消防局現地指揮本部内にありますので、まずそこに行ってください。医師会対策本部から送った FAX には現場への略図が書いてありますのでご覧下さい。

班員 : 承知しました。復唱します。現場は〇〇町〇〇番地付近であり、最も近い斜路は〇〇町〇〇番地ですね。斜路の付近に『消防局現地指揮本部』があるのですね。事故現場には M 小学校や〇〇クリニックが近くにあるのですね。

医師会対策本部 : そのとおりです。至急出動してください。二次災害に十分ご注意ください。

班員 : 了解しました。直ちに準備をして事故現場に向かいます。

訓練のポイント

- (1) 連絡を受けた正副班長が出動できない状況を常に想定しておく必要がある。医師の不在や飲酒されている場合も想定し、出動医師の確保をいかにするか検討する機会とする。また、初動救護班の医師であることを証明する物が必要か検討する機会とする。
- (2) 出動する医師には電話と FAX で指示を伝え、事故の状況や発生場所、『消防局現地指揮本部』の設置場所などを確実に伝える訓練をする。伝達する内容も検討する機会とする。
- (3) 新幹線の高架上への通行や負傷者の搬送には、約5 Km ごとにある斜路を利用するしかない。そのため、斜路を中心とした地域の交通規制がしっかり検討される必要がある。現場付近の道路の大渋滞や車両の誘導にどのような対応するか、検討する機会とする。

- (4) 班員の事故現場に出動する交通手段をどうするか、普段から考えておく機会とする。
班員の出動に公的車両（例えばパトカーなど）は用いられないか、検討する。
- (5) 出動する医師の服装、携行物を検討する機会とする。
-

3) 医師会対策本部から傷病者収容班正副班長病院長への連絡訓練

実施者： 医師会対策本部 本部員 ⇄ 正副班長病院長

医師会対策本部 班長病院へ

医師会対策本部：もしもし、こちらは高崎市医師会の江原です。高崎総合医療センターですか。
市内を走る上越新幹線の高架上で列車が脱線転覆する大事故が発生したため、
至急金澤院長先生に繋いでください。

金澤院長先生、本日午前9時10分頃、〇〇町〇〇番地付近で上越新幹線が走行中に脱線事故を起こし、前3両が転覆するという大事故が発生し、重症者が多数発生した模様です。先ほど、医師会は災害医療活動を発動致しました。至急、傷病者収容班班長病院として、負傷者の受け入れ態勢を整えてください。また、副班長の日高病院、第一病院と連絡をとり、班として傷病者の受け入れ態勢を協議してください。既に、初動救護班には出動の指示を出しております。詳しくは医師会対策本部からのFAXをご覧ください。

金澤院長：承知しました。直ぐに副班長病院や班病院と連絡をとり、負傷者の受け入れ態勢を整えるように致します。事故の状況から重症な負傷者が多数発生した模様ですので、班病院ばかりでなく、群馬大学病院や県内、県外の災害拠点病院を中心に協力をお願いして下さい。

医師会対策本部：承知致しました。

医師会対策本部 副班長病院へ

医師会対策本部：もしもし、こちらは高崎市医師会の江原です。第一病院の佐藤院長先生ですか。先生、本日午前9時10分頃、〇〇町〇〇番地付近で上越新幹線が走行中に脱線事故を起こし、前3両が転覆するという大事故が発生し、重症者が多数発生した模様です。先ほど、医師会長は災害医療活動を発動いたしました。至急、班長病院の高崎総合医療センターと連携して負傷者の受け入れ態勢を整えてください。詳しくは医師会対策本部からのFAXをご覧ください。

第一病院院長：承知いたしました。直ちに、受け入れ態勢を整えると同時に、正副班長病院や他の班病院と連絡をとるように致します。

訓練のポイント

- (1) 傷病者収容班として、最初に搬送される沢山の赤タグ患者に対してどのように対応するのか、JR福知山線脱線事故を教訓に、普段からその対応策を検討する機会とする。
さらに、多数の黄タグ、緑タグ患者について、班病院の連携の在り方を検討する機会とする。
- (2) 特に、対応しきれない負傷者については、市外、県外の大学病院や災害拠点病院等に搬送せ

ざるを得ないわけであり、その場合の連携をどのようにするか、訓練を通じて検討する機会とする。

4) 事故現場から傷病者収容班病院への負傷者搬送依頼訓練

実施者 : 初動救護班 班員 ⇄ 傷病者収容班病院 救急担当医師

症例 1

初動救護班班員 : 高崎総合医療センターですか。私は、先ほど発生した上越新幹線の事故現場に出動している医師の水内と申します。赤タグ患者の受け入れをお願いしたいので、至急救急医療担当医に繋いでください。

救急担当医 : 救急医療担当の野口です。

班員 : 私は、事故現場に出動している水内と申します。赤タグ患者の搬送を行いたいと思いますがいかがでしょうか。

救急担当医 : どのような状態でしょうか。

班員 : 負傷者の状況は次のようです。

- 1) 患者 : 群馬富士子 40歳女性
- 2) 受傷状況 : 脱線転覆した列車内で他の負傷者の下敷きになって発見された。
- 3) 主症状 : 喀血、呼吸苦、右側胸部変形
- 4) バイタルサイン

意識 : 清明 脈拍 : 124/分 呼吸 30/分

以上、バイタルサインの低下と喀血、呼吸苦が認められ複数の肋骨骨折と肺損傷が疑われます。

救急担当医 : 分かりました。入院を受けますので、直ぐに搬送してください。

症例 2

初動救護班班員 : もしもし、日高病院ですか。私は先ほど発生した上越新幹線の脱線事故現場に出動している医師の水内と申します。重症患者の受け入れをお願いしますので、至急救急医療の担当医に繋いでください。

救急担当医 : 救急医療担当の間庭です。

班員 : 私は、事故現場に出動している水内と申します。頭部外傷の赤タグ患者をそちらに搬送したいと思いますがいかがでしょうか。

救急担当医 : 現在、当院では赤タグ患者 5名、黄タグ患者 5名が入院して手一杯であり、その患者への対応は無理ですので、他の病院をお願いいたします。

班員 : 分かりました。他の病院をお願いするようにします。

訓練のポイント

- (1) 赤タグや黄タグなどの重症患者の搬送要請が断られることは十分予想される。一度に沢山の赤タグ、黄タグ患者が発生することを想定し、班病院はもちろん、群馬大学病院や市外、県外の災害医療拠点病院などと連携した対応を検討する機会とする。

(2) 同じ赤タグ患者間でも、優先順位の決定が必要な場合がある。どのような赤タグ患者を最優先にするのか、検討する機会とする。

5) 医師会現地対策本部からのヘリ搬送依頼訓練

実施者 : 医師会現地対策本部 本部員 ⇄ ○○大学病院 救急担当医師

現地本部員 大学病院へ

初動救護班員 : もしもし、○○大学病院ですか。私は、先ほど発生した新幹線の脱線事故現場に出動した医師の正木と申します。○○大学病院にヘリコプター搬送したい赤タグ患者がいますので、至急、救急担当医につないでください。

救急担当医 : 救急担当の茂木です。患者の状況を知らせてください。

班員 : 患者の状況は次のようです。

- 1) 患者 : 群馬富士夫 23才男性
- 2) 受傷状況 : 脱線転覆した列車内で他の負傷者の下敷きになって発見された。
- 3) 主症状 : 胸背部痛、下腹部痛、腸骨の異常可動性
- 4) バイタルサイン

意識 : 清明 脈拍 : 130/分 呼吸 : 32/分

バイタルサインが低下し、主要な症状・所見から骨盤骨折などが疑われます。

救急担当医 : 分かりました。入院を受けますので、直ぐにヘリ搬送してください。

班員 : 直ちに搬送手続きに入ります。

現地対策本部員 消防局現場指揮本部へ

初動救護班員 : 私は医師会初動救護班の正木です。消防局『現場指揮本部』ですか。赤タグ負傷者1名を埼玉県の○○大学病院にヘリコプター搬送を行います。先方は了解しましたので、直ちに搬送手続きに入ってください。

消防局現場指揮本部員 : 直ちにヘリ搬送の手続きに入ります。既に、○○小学校の校庭にヘリ発着場所が確保されていますので、そちらに救急車で搬送してください。ヘリ到着時刻は約20分後の午前10時40分の予定です。

班員 : 了解しました。直ちに○○小学校の校庭に搬送いたします。

訓練のポイント

- (1) 大規模事故が発生した場合には、直ちにヘリコプター搬送に備える態勢を整え、多数の搬送依頼に迅速に対応する必要がある。群馬県や近隣県のドクターヘリや防災ヘリなどを動員する、迅速なヘリ搬送について検討する機会とする。
 - (2) ヘリ搬送可能な市外・県外の医療施設のリストを作成する機会とする。
 - (3) 近隣県のドクターヘリや防災ヘリ、自衛隊のヘリに出動を依頼する基準や手続きを検討する機会とする。
-

6) 模擬負傷者へのトリアージ訓練 : 司会: 小坂橋委員長

トリアージ実施者 : 道又俊子先生、梅山知一先生、中島 透先生

記録者 : 関口孝雄先生、真下正道先生、茂木元喜先生

訓練の進行

(1) 一次トリアージ (START 法) の訓練を行う。

医師 2 名が 1 組となり、模擬負傷者 5 名と蘇生術訓練用人形 1 体に対して、START 法による一次トリアージを行う。トリアージ実施者は、マイクを持って、声を出しながら、ブルーシートに横たわっている模擬負傷者全体のトリアージを迅速に進め、必要があれば応急処置を指示する。記録者はトリアージタグに記載し、漏れがあれば指摘をする。

(2) 模擬負傷者は、負傷者らしくメイキャップをし、声を出して症状を演技する。

負傷の状況や診断名は模擬負傷者には知らせてある。受傷状況や主要な症状、バイタルサインなどは、メモにして負傷者の胸に貼ってある。

模擬症例 (別紙参照)

- (1) 胸痛、フレイルチェストのある症例
- (2) 呼吸苦、皮下気腫、外頸静脈怒張のある症例
- (3) 顔面蒼白、四肢の変形がある症例
- (4) 開放性大腿骨骨折の症例
- (5) 側頭部裂創、嘔吐、意識障害のある症例
- (6) 呼吸停止症例

訓練のポイント

- 1) START 法によるトリアージに慣れ、習熟する。特に、黒判定に習熟する。
 - 2) 負傷者に扮した模擬負傷者の演技に惑わされず、負傷者全体のトリアージ・把握を迅速に行う訓練をする。特定の負傷者への対応に時間を取られ、迅速に全体をトリアージ・把握することが遅れないように、訓練を通じて習熟するようにする。
-

C. 訓練後の検討会 (午後 8 時 40 分 ~ 9 時 00 分) 司会 : 高木副担当理事

1. 釜薙会長挨拶
2. 各機関の担当者挨拶
5. 質疑応答

訓練終了宣言

午後 9 時 00 分

松島副委員長

トリアージ訓練のための模擬症例

症例 1 胸痛、フレイルチェストのある症例（20 歳男性）

受傷状況 : 転覆した車両に乗っていて胸部を強打した。
主要症状 : 胸痛が強く、フレイルチェストがみられる。胸郭が左右不対称。
バイタルサイン : 意識：清明 脈拍：90/分 呼吸：32/分
歩行 : 不可能

症例 2 呼吸苦、皮下気腫、外頸静脈怒張のある症例（40 歳男性）

受傷状況 : 転覆した車両に乗っていて胸部や全身を打った。
主要症状 : 呼吸苦、皮下気腫、外頸静脈怒張がある。
バイタルサイン : 意識：清明 脈拍：144/分 呼吸：30/分
歩行 : 不可能

症例 3 顔面蒼白、四肢の変形がある症例（20 歳女性）

受傷状況 : 転覆した車両に乗っていて、乗客の下敷きになっていた。
主要症状 : 右大腿部の腫脹・変形、右前腕の腫脹・変形、疼痛、左右踵部の腫脹
バイタルサイン : 意識：傾眠状態 脈拍：130/分 呼吸：28/分
歩行 : 不可能

症例 4 開放性大腿骨骨折の症例（30 歳男性）

受傷状況 : 転覆した車両に乗っていて、乗客の下敷きになっていた。
主要症状 : 開放性大腿骨骨折、広範囲の軟部組織損傷
バイタルサイン : 意識：清明 脈拍：90/分 呼吸：20/分
歩行 : 不可能

症例 5 側頭部裂創の症例（20 歳女性）

受傷状況 : 脱線転覆しなかった車両に乗っていて、頭部を強打した。
主要症状 : 側頭部裂創、嘔吐、意識障害
バイタルサイン : 意識：呼びかけでわずかに開眼 脈拍：50/分 呼吸：10/分
歩行 : 不可能

症例 6 呼吸していない症例

受傷状況 : 脱線転覆した車両に乗っていて、数人の乗客の下になっていた。
主要症状 : 呼吸停止状態で発見された。
バイタルサイン : 意識：なし 脈拍：触れず 呼吸：停止状態

模擬症例への若干の解説

症例 1 胸痛、フレイルチェストのある症例（20 歳男性）

胸部を強打して、連続する複数の肋骨が 2 か所以上骨折した場合に生じるフレイルチェスト、肺損傷を想定した症例です。吸気時の陥没と呼気時の膨隆が生じる動揺胸郭がみられ、胸部に激痛を訴えます。動揺を最小限にする応急処置として、布などを厚手にして骨折面をゆっくりしっかりと押さえ、押さえたものをテープなどで固定します。

トリアージ：赤

症例 2 呼吸苦、皮下気腫、外頸静脈怒張のある症例（40 歳男性）

胸部を強打して、肋骨骨折による緊張性気胸が生じた症例を想定しています。心臓や肺を圧迫している状態で、ショックに陥る危険性が高く、緊急に胸腔穿刺を行わないと死に至る危険性があります。

トリアージ：赤

症例 3 顔面蒼白、四肢の変形のある症例（20 歳女性）

多発長管骨骨折を想定した症例です。多発長管骨骨折症例には胸部や腹部の臓器損傷の頻度が高く、四肢の変形に目が奪われやすく、臓器損傷の発見に十分な注意が必要です。また、骨折の多発により、出血総量が多くなると出血性ショックにも注意が必要です。

トリアージ：赤

症例 4 開放性大腿骨骨折の症例（30 歳男性）

開放性骨折は、現場においては創への感染防止および出血性ショックに十分注意する必要があります。大腿骨の開放骨折では、血管や神経の損傷にも十分留意し、多量の出血が持続する場合には緊縛止血を行ったあと、固定処置を行います。搬送までに数時間の猶予があります。

トリアージ：黄

症例 5 側頭部裂創、嘔吐、傾眠傾向ある症例（20 歳女性）

頭部外傷による硬膜外血腫、脳圧亢進を想定した症例です。硬膜外血腫は強い衝撃で一時意識を失いますが、回復し、頭蓋内の出血量が増えるに従い再び意識が再低下するまで、意識清明期があります。しばしば頸椎の骨折を合併し、見過ごされると、頸髄損傷により四肢に麻痺が生じます。また、意識障害時の嘔吐は、窒息に十分注意する必要があります。

トリアージ：赤

症例 6 呼吸していない症例

迅速に、確実に死亡を確認する訓練を行います。極短時間のチェックで、蘇生術を行わずに負傷者にトリアージタグ黒を付けることは、トリアージ実施医に大きな負担となります。普段から、『黒』と確実にトリアージする訓練が是非とも必要と思われれます。

緊急連絡

高崎市医師会災害対策本部

1. 事故の概要

- 1) 本日午前9時10分頃、上越新幹線の上り列車が、高崎駅から約4Km南の〇〇町〇〇番地付近を走行中に脱線し、前3両が高架上で転覆した。
事故現場の近くには、M小学校、〇〇クリニックがある。
- 2) 転覆した前3両を中心に多数の重症者が発生した模様である。
- 3) 原因は現在のところ不明である。車両火災は発生していない。
- 4) 事故現場に最も近い斜路（高架上への通路）は、〇〇町〇〇番地にある。

2. 災害医療活動の決定

高崎市医師会長は、高崎市長の要請により、午前9時20分、救急災害医療活動を行うことを決定した。

3. 初動救護班、東部支援救護班へ

- ・初動救護班班長森田英樹先生、筆頭副班長水内整先生は直ちに出勤の準備をして、消防局からの迎えの車を待ってください。
- ・他の初動救護班員は、直ちに現場に出勤してください。
医師会現地対策本部は、斜路付近に設置された消防局現地指揮本部内にあります。先に着いた正副班長、班員、消防局現地指揮本部員等の指示に従ってください。
- ・東部支援救護班は、医師会本部の指示により出勤できるよう待機してください。
- ・二次災害には十分ご注意ください。

4. 傷病者収容班病院へ

正副班長病院を中心に、負傷者の収容態勢を整えてください。

5. 医師会対策本部および医師会現地対策本部構成員へ

両対策本部の構成員は直ちに仕度をして出勤してください。

6. 事故現場の略図

現場周辺地図

START 法による事故現場でのトリアージ

1. トリアージ

トリアージとは、人材・医療資源が著しく制約された大規模な事故や災害において、最善の救命効果を得るために、多数の傷病者を重症度と緊急性によって分類し、治療の優先度を決定することです。

2. START 法 (Simple Triage And Rapid Treatment)

通常、事故現場でのトリアージに用いられ、次の4つに判定分類されます。

1) トリアージ判定の4分類

黒タグ : 死亡、もしくは現状では救命不可能とされるもの。

赤タグ : 生命に関わる重篤な状態であり、一刻も早い治療が必要で救命の可能性のあるもの。

黄タグ : 今すぐ生命に関わる重篤な状態でないが、早期に治療が必要なもの

緑タグ : 救急での搬送が必要でない軽症なもの。

2) START 法によるトリアージの進め方 (負傷者1人 30秒以内で判定)

・歩けるもの ⇨ 緑 (状態の悪化がないか絶えず観察する必要がある)

・歩けないもの



・自発呼吸なし ⇨ 気道確保 ⇨ 自発呼吸ありは赤、なしは黒

・自発呼吸あり



・呼吸数 30/分以上または9/分以下 ⇨ 赤

・呼吸数 10~29/分



・毛細血管再充血時間 2秒超又は橈骨動脈触知不可か脈拍 120/分以上

⇨ 赤

・毛細血管再充血時間 2秒以下または橈骨動脈の脈拍 120/分未満



・簡単な指示に応じない ⇨ 赤

・簡単な指示に応じる

・介助で移動不可能 ⇨ 黄

・介助で移動可能 ⇨ 緑

注1. 『気道確保』とは、『あご先挙上法』または『下顎挙上法』を行う。

注2. 脈拍、毛細血管再充血時間はどちらでもよい。脈拍は5~6秒測定し12~10倍する。

注3. 『簡単な指示』とは、たとえば『私の手を握って。今度は離して。』など。



